

山 菜 の 栽 培 化 技 術

第1報 オオバギボウシの種子による増殖法

金森 靖・新毛 晴夫・鎌田 信昭

(岩手県園芸試験場高冷地開発センター)

Domestication of Wild Vegetables

1. Propagation of "Hosta Sieboldiana Engl." by seed

Yasushi KANAMORI, Haruo SHINKE and Nobuaki KAMATA

(Highland Cool-zone Development Center, Iwate Horticultural Experiment Station)

1 は じ め に

岩手県においてオオバギボウシは、ウルイと称され山菜のなかでも食味の点で非常に珍重されており、栽培化もなされてきている。しかし、一般に栽培されている系統の多くはギボウシであり食味の点ではオオバギボウシに劣り、種子による増殖は難しく、株分けによって増殖している。一方、オオバギボウシは一般に種子による繁殖が可能であり、奥羽山系産の山どり系統のものは6月中旬頃から花茎が抽だいをはじめ、7月上旬に開花し、9～10月には採種できる。

株分けでは、一度に株を大量増殖することはできないが、種子による増殖ではそれが可能である。

そこで、オオバギボウシの種子による栽培の一般化を目標に、種子の好適発芽条件及び育苗法について検討した。

2 試 験 方 法

- (1) 試験場所 岩手園試高冷地開発センター 雨よけハウス (標高 430m)
- (2) 試験年次 1989年～1991年
- (3) 供試系統 山どり自生系
- (4) 試験区の構成 (表1, 表2)

表1 種子の低温処理による好適出芽条件の検討

年 度	処理温度	処理日数 (日)
1989年	0℃	0, 9, 19, 29, 42, 161
1990年	1℃	10, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100, 110
1991年	1℃, 5℃	10, 20, 30, 40, 50

表2 育苗方法の検討

(mm)					
№	区 名	直径	高さ	たて	よこ
1	育 苗 箱	—	52	570	320
2	ビートポットA	20	130	290*	116*
3	" B	20	65	290*	116*
4	アスパラポットA	30	135	310*	127*
5	" B	30	67	310*	127*
6	露 地 点 播	—	—	—	—

* 検事展開寸法

(5) 低温処理方法 種子を10時間吸水後、暗黒条件下で低温処理

(6) 栽培の概要

は種方法:

育苗箱 (ハウス内育苗), 露地点播 条間10cm株間1.5cm

ペーパーポット (ハウス内育苗) 2～3粒/ポット

床土: 腐植質黒ボク土とピートモスを容量比8:2に混合したもの

施肥量 (g/ℓ): 窒素 0.16 リン酸 0.6 カリ 0.24

3 試 験 結 果

(1) 発芽条件の検討

1989年には湿種子を低温処理 (0℃) することにより出芽率が向上した。低温処理29日以上で85%以上が出芽し、161日処理ではほぼ全種子が出芽した。低温処理期間が長いほどは種から出芽までに要する日数が短くなる傾向を示し、出芽の揃いも良くなった。

1990年には4月9日は種、5月1日は種ともに低温処理50日以上で80%以上の出芽率となった。低温処理をしなくても30～47%出芽したが、出芽が不揃いでは種から出芽までに要する期間も長くかかった。低温処理期間が20日から50日までは、処理期間が長くなるほど、出芽までの日数が短縮したが、処理期間が60日以上ではほぼ同日数となった (表3)。

表3 4月上旬は種におけるオオバギボウシ種子の出芽 (1990年4月9日は種)

処理日数	出芽始 (月日)	出芽期 (月日)	出芽期までの日数	出芽率 (%)	
				**50日	**65日
無処理	5.26	6.2	66	0	30
10	5.26	5.31	64	0	40
20	5.21	5.30	64	0	55
30	5.17	5.21	54	5	70
40	5.10	5.16	49	52	74
50	5.10	5.15	48	57	82
60	5.7	5.12	45	71	81
70	5.5	5.12	45	82	87
80	5.5	5.11	44	80	83
90	5.5	5.11	44	85	88

*1℃処理 **は種後日数

1991年にも、低温処理により出芽率が向上し、出芽揃いが良くなる傾向がみられた。無処理区では出芽率が67.5%であったのに対し、処理温度1℃の50日処理区で93.3%、5℃の50日処理区で75.0%となり1℃、5℃ともに処理期

間50日で出芽率が最高となった。低温処理による出芽率向上の効果は、処理温度1℃の方が5℃よりも強い傾向がみられた(表4)。

表4 6月中旬は種におけるオオバギボウシ種子の出芽

(1991年6月12日は種)

処理温度	処理日数	出芽始 (月日)	出芽期 (月日)	出芽期ま での日数	出芽率(%)の推移				
					**10日	20日	30日	40日	50日
無 処 理		7. 3	7.13	32	0	3	38	65	68
1℃	10	6.29	7. 8	26	0	3	58	73	73
	20	6.29	7. 6	24	0	28	60	60	60
	30	6.29	7. 8	26	0	22	67	75	75
	40	6.27	7. 5	23	0	38	68	70	70
	50	6.27	7. 1	19	0	65	93	93	93
5℃	10	7. 1	7. 6	24	0	13	13	72	73
	20	6.29	7. 5	23	0	32	65	65	65
	30	6.27	7. 1	19	0	53	63	67	68
	40	6.27	7. 5	23	0	35	48	48	48
	50	6.27	7. 5	23	0	22	67	75	75

* * は種後日数法

(2) 育苗方法の検討

1989年は、ペーパーポットで育苗したものは育苗箱に点播したものにくらべて地上部の生育は劣ったが、根長、根重でまさり、移植後の欠株率も低かった。

表5 オオバギボウシ育苗方法と移植時の苗の生育
(1990年5月2日は種・は種72日後)

No.	区 名	葉数 (枚)	葉長 (cm)	根長 (cm)	100個体重(g)	
					地上部	地下部
1	育 苗 箱	3.1	3.0	6.3	10.3	10.0
2	ビートポットA	3.3	3.9	9.9	13.9	13.3
3	" B	3.1	4.2	7.9	12.0	11.0
4	アスバラポットA	3.2	3.5	9.5	13.8	14.2
5	" B	3.0	3.1	7.3	11.4	12.0
6	露 地 点 播	3.1	2.9	6.2	0.7	0.6

1990年は、ハウス内で育苗したペーパーポット育苗のものと育苗箱に点播したものが、露地に点播したものより生育がまさった。特にペーパーポット育苗では葉長、根長が長く、100個体重も重かった。ペーパーポットはポットの直径が大きく、土量の多いほど生育が良かった(表5)。

4 ま と め

オオバギボウシの種子は湿種子を低温処理することにより出芽率が向上し、は種から出芽までに要する日数も短縮されることが明らかになった。処理温度は5℃よりも1℃のほうが効果的であり、処理日数は50～60日以上必要である。また、ペーパーポットによる育苗も可能である。